探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：加計中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
加計中学校	4	47
加計小学校	8	106

（ R5. 12.1　現在で記入 ）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

自らの生き方を切り拓く基盤となる資質・能力の育成～ふるさとに学ぶ小中９年間を見通した探究的な学習をとおして～と題し、今年度、目標を実現するためにふさわしい探究課題・単元開発、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の設定、資質・能力に基づいた評価規準の研究、単元の指導計画に沿った評価計画及びルーブリックの研究を行う。

（２）資質・能力の設定について

小・中学校がめざす児童・生徒像を想定し、「自ら求め・自ら考え・最後までやり抜く」ことを小・中学校で共通して取り組む。

（３）取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

今年度の取組として①児童・生徒が主体となって単元を進めていく中で、子供たちの活動の姿を教員が想定しておくこと。②子供たちがどんな地域の人との出会いを求めるのか、どんな計画で進めていくのか、想定しておくこと。の２点について、教員が意識しながら取り組む。また、１年間完結の探究活動ではなく、子供たちが本気になって取り組む探究になるよう、子供たちに多くの視点を広げられるよう中学校区全体で取り組んでいく。

２　実践事例

【 加計小学校３年生：　野さい農家ちょうさたい 】

社会科の学習で、安芸太田町の地図を見る機会があり、児童は安芸太田町には田畑が多いことに気が付いた。そこから、「田畑では何を育てているのだろう？」と疑問を持ち、活動が始まった。既習の知識や経験から野菜を育てている人にインタビュー活動を行った。たくさん質問を考え、準備万端でインタビューを行ったつもりだったが、インタビュー内容をまとめてみると一生懸命考えた質問の全ての回答を得ることができていなかった。そこで、もう一度インタビューしたいと考え、確実に質問に対する答えを聞くことができる方法を模索した。子供たちは、学んだ知識やこれまでの経験をたくさんの人に知らせたい！と、新聞を作成して校内に掲示した。そして、校長先生からのミッションである「大人も子供もまるごとハッピー！」を実現するために安芸太田町内の野菜を使ってお菓子を作り、お世話になった地域の方々を招き、作ったお菓子を食べてもらいハッピーをつなげた。考えたレシピは、学校のHPへ掲載し、より多くの人へハッピーを届ける活動へと活動の幅を広げることができた。

【加計中学校２年生：「AKIOTAKARA」で地域や人々を豊かにしよう～模擬会社設立！～　】

昨年度の取組で、AKIOTAKARAを見つけた子供たちは、今年度、AKIOTAKARAを残していく活動のためには、お金が必要と考えた。そこで、自分たちで模擬会社を設立し、安芸太田町の木を使った製品を販売しようと考え取組を始めた。「商品は何にしようか。会社の社長は誰？どこで、誰に販売するか?」と考えることはたくさんある。道の駅や商店街など、地域に出て、数多くの商品開発のヒントを得た子供たちは、木材加工の会社に直接話しに行ったり、電話で何度も自分たちの思いを伝えたりしながら活動を進めた。値段設定では自分たちの思いとは裏腹に高くなり、希望する金額では商品の完成度が低くなるなど、思うようにはいかない。自分たちが納得のいく値段・商品になるよう、いろいろな意見や考えを集め活動を進めていった。生徒は、教員へアンケートを取り、値段を確定していった。一人一人が担当教員に商品についてプレゼンし、購入してもらうために交渉をした。動画を撮影してCMを作ったり、商品の良さをアピールするためのポップを作ったりと、子供一人一人が今の自分に何ができるかを考えながら活動に取り組んだ。まさに、この活動を自分事として捉え、自主的に取り組む姿であった。

【生徒の振り返り】

・商品を作ることの難しさやいろいろな人のことを考えなくてはいけないことをより深く実感できた。

・計画をしっかり立てて、協力しながら物事をすすめることが大事だと学べた。

・考えた商品は値段が高くなってしまったり、作ってもらったサンプルが思っていたものとは違ったりしたけど、最終的にはよかった。

【個に応じた指導の充実】

「子供たちのやってみたい！」という気持ちを大切に、振り返りの方法を充実させることにより、一人一人の取組過程を把握し、活動の様子や子供たちの考えを意識しながら取組を進めることができた。

中学校では、各学年全体で探究活動に取り組み、研究推進リーダーが全学年の授業に入ることで、学校全体で活動を進めることができた。複数の教員が活動に関わることにより、より個に応じた支援が可能となり、子供一人一人の活動の幅が広がった。また、小学校へも研究推進リーダーが定期的に授業参観を行うことで、小中共通した学びにつなげることができた。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

探究的な学習に取り組んでいく上で、「子供たちのやってみたい！」という思いを大切に単元開発できた。地域に出て、地域にふれてみる。そこから疑問をもち活動を進めた。子供たちが創り出す探究活動だからこそ、スムーズにはいかない。疑問がたくさんあるからこそ、寄り道し、迷いながら活動を進めていく。教員はその活動をサポートする。失敗を恐れず、子供たちに寄り添い、子供たちの興味関心を大切に、学びをつなげていくことで、教員はファシリテーションする力が向上した。小学校では、他教科との関連を意識しながら、教科で学んだことが探究活動に生かせないか、といった教科横断的な視点で活動を支えることができた。子供たち発信の取組だからこそ、子供たちが自分事として捉え、最後までやり抜く学びになった。子供たちが自分の言葉で取組を語ることができるよう、振り返りを充実させた。子供たちは、ＩＣＴを活用することで、学びの足跡を蓄積し、それを活用して、自身の資質・能力を振り返ることができるようになった。また、教員は、活動のゴールだけでなく、取組過程を見取り、評価につなげることが可能になった。

また、より深い学びになるための教員の引き出し不足が課題としてあげられていた。この課題を解決するため、小中合同で学年を越えたグループ協議を行い、お互いの授業を参観した。お互いの授業を参観することで、どんな活動をしているのか、また、子供たちの学びを深めていくうえでどんな取組ができそうか相談する場を設けることができた。このことは、小中全体での９年間の探究的な学習の充実となったと考える。

「広島県児童生徒学習意識等調査」を参考として、今年度の小学６年生、中学３年生を対象にアンケートを実施した。（結果は表１のとおりである。）探究的な学習に取り組むことで、【まとめ・創造・表現】の項目や【振り返り】の項目において、肯定的評価がアップしている。探究的な学習が、活動だけで終わるのではなく、学んだことを誰かに伝えたい！将来の夢や目標に生かしていきたい！と感じることのできる学習になったと考える。

（２）課題

アンケート結果からも分かる通り、【学習意識】の項目で肯定的評価が下がっている。これは、探究的な学習をする上で、各教科での学びがつながっていないからなのではないかと考える。各教科で学んだ知識や経験を、探究的な学習へとつなげ、生かしていく。学びのスパイラルを回しながら取組を進めていきたい。

（表１）「広島県児童生徒学習意識等調査」加計中学校（現３年生21名）加計小学校（現６年生16名）同一学年による経年比較

【学習意識】 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力します。		
	加計中	加計小
Ｒ４年度	87.5	75.0
Ｒ５年度	82.4	66.7
【まとめ・創造・表現】 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。		
	加計中	加計小
Ｒ４年度	87.5	62.5
Ｒ５年度	88.2	66.7
【振り返り】 学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習方法でうまくいったことや失敗したことの理由」を考えています。		
	加計中	加計小
Ｒ４年度	87.5	68.8
Ｒ５年度	82.4	73.3
【振り返り】 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。		
	加計中	加計小
Ｒ４年度	81.2	62.5
Ｒ５年度	82.4	86.7
【自己表現力】 将来の夢や目標はかなうと思います。		
	加計中	加計小
Ｒ４年度	75.0	75.0
Ｒ５年度	82.4	80.0

（３）今後の改善方策等

学年が上がり、指導者が変わったとしても、これまでに学んだ知識や経験を生かした探究活動となるよう、子供たちがどんな探究的な取組を実施してきたのかを記録に残しておく必要がある。また、地域の誰と出会い、何を学んだのか小中が共通認識しておく必要がある。この３年間の取組が３年間で終わらず、今後も続けていくために、今年度各学年の取組をまとめた単元表をもとに、子供たちの思いや願いを大切に、探究的な学習をつなげていきたい。

各学年の取組をまとめた単元表